

令和5年7月6日

意見発表

○西村くにご委員

私は、公明党神奈川県議会議員団を代表し、意見発表を行います。

まず、部活動の地域移行について申し上げます。神奈川県内の公立中学校における部活動の地域移行に係る方針（仮称）（素案）について報告を受け、中学生の部活参加者の1割に当たる生徒が参加している吹奏楽部を想定して質問させていただきました。吹奏楽部は特徴的な課題が多くありますが、それら課題の解決として幾つか提案をさせていただきました。

まず、地域の一般楽団に生徒が参加する場合を想定して、受皿となり得る地域の一般楽団を把握しておく必要があると思います。

次に、新しく楽団をつくる場合も、近隣の学校との合同バンド、公共施設の事業としてのジュニアバンド、民間主導のジュニアバンドなど様々な形態が想定され、どこが所管となり、どのような枠組みで進めるのか、関連部局と連携し、様々な形態に対応できるようにしておいていただきたいと思います。

また、指導者の確保・育成は、運動部、文化部を問わず大きな課題ではありますが、吹奏楽部においても、技術面においては楽器ごとの指導が望ましく、指導者を把握する人材バンクの設置が望まれます。

また、教師が行っていた業務のどこまでを継承するのか、運営、会計、引率、保護者対応、安全管理等、その責任と権限を明確化する必要があると申し上げます。

さらに、指導者に対する謝礼などの費用についても、どこが、あるいは誰が幾ら負担するのか、その場合、経済的課題のある生徒の負担が増えることは避けなければならないことは言うまでもありません。検討を求めています。

その他、楽器の調達、保管、運搬、維持や練習場所の確保も大きな課題です。

このように、課題を挙げれば切りがなく、地域移行の難しさばかりが目につきますが、一方で、外部移行のメリットとして、少子化を超えて人数不足を補い合える、地域で年齢を超えた交流が図れる、専門的メソッドを持つ講師の指導を受けられるようになるなど、そういった効果も期待ができます。吹奏楽部で音楽と出会い、プロの奏者となり、活躍されている方々が本県にも多くいらっしゃいます。本県の文化向上のためにも、吹奏楽部をはじめとする文化部活動の地域移行を国際文化観光局としてしっかりとサポートされるよう要望します。

次に、観光危機管理について申し上げます。近年、発生頻度が高まっている大雨や地震などの自然災害や新型コロナウイルスのような感染症の発生、また現実味を帯びてきたテロなど、日本においても観光客が災害に巻き込まれるリスクは高まっていると言います。

一方で、インバウンド需要は回復してきていますが、外国人観光客が日本を選ぶ理由として、円安により、安くて質の高いサービスが受けられることとともに、日本の治安のよさや安全性の高さが評価されていると聞いています。本

県においても、これらの評価を高め、信頼を強固なものとするために、観光客の安全・安心に関する取組、いわゆる観光危機管理を改めて検討すべきであると考えます。

質疑では、観光危機管理のマニュアルを見直すとの答弁をいただきました。実効性のあるマニュアルを作成するとともに、今後は観光、防災、双方の知識を持つ専門人材の登用や育成、万が一に備え、緊急時の情報発信用サイトをあらかじめ作成しておくなど、県にできることを進めるとともに、事業者をはじめ関係各位の御意見を伺い、課題を克服して、観光危機管理の充実を目指されますよう要望します。

最後に、山北のお峰入りについて申し上げます。昨年11月に、日本の風流踊の一つとして山北のお峰入りがユネスコ無形文化遺産に登録をされ、今年10月8日、6年ぶりに開催されるとのことです。県民として誇らしく、お峰入りを保存、継承されてきた関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

観光面では広報を行い、文化面ではマグカル事業として、リ・古典での紹介を企画されているそうですが、県民に広く伝わっているとは言い難い状況です。お峰入りは、チャッキラコとともに本県の宝として広く知られるべきと考えます。関係部署とも連携し、地元の御意見や御要望なども承って、本県民俗芸能の継承に積極的に関わっていただけますよう要望いたします。

以上、意見、要望を申し上げ、当委員会に付託された諸議案に賛成をし、意見発表といたします。